

あおぞらニコニコ通信 2020年 8月号

発行：社会福祉法人三田谷治療教育院
 児童発達支援センター 明石市立あおぞら園／児童発達支援事業 明石市立きらきら
 〒674-0092 明石市二見町東二見 1836-1 ふれあいプラザあかし西 2階
 TEL.078-945-0280 FAX.078-945-0281 http://sandaya.or.jp/aozoraen/

浅原奈緒子園長のご挨拶

今年は、ほんとに暑い日が続きますね。連休明けは少し調子が出ない子どもたちも、園生活に慣れてくると力いっぱい体を動かして遊んでいました。力いっぱい体を動かしたあとは、おしごと集中して取り組んでいる子がたくさんいました。昨年度のことを覚えていた子も多かったのかスムーズに取り組めていました。そのほかにも、夏祭りでは順番を守って遊びを楽しんだり、手洗いで「ごしごし」と言いながらやっているのが定着して、絵本で「ごしごし」というフレーズがでてきたら子どもたちも自分の手を洗う真似をするなど、子どもたちは確実に成長発達しているんだなと感じました。これからも、子どもたちの「できる」をどんどん増やしていくお手伝いをしていきたいと思っています。



夏祭りくじ引きの様子



手洗いの様子



おしごとの様子

あおぞらフェスティバルを終えて

規模を大幅に縮小して「あおぞらフェスティバル」を行ないました。例年、保護者の皆様やきょうだい児のお子様にも参加して頂いていますが、今年度は新型コロナウイルス感染予防の為、園児のみ普段の療育の中で「おまつりあそび」として行事を行ないました。

ご家庭にご協力頂き作成した「ちょうちん」は、各保育室に飾らせて頂きました。色とりどりのかわいいちょうちんの中で、おまつりの雰囲気を感じ、各クラスでゲーム遊びを楽しみました！普段と少し違った雰囲気の中で、いつもと少し違う遊びを経験できた事は良かったと思います。

今年度は楽しみにしていた事が変更になったり中止になったりしていますので、寂しさや残念な気持ちがありますが、こんな時だからこそできる事もあると思います。今後も行事等を含め、お子様が安全に楽しく園生活を送る事ができるように、職員一同頑張っていきますので、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。(内山)



きらきらフェスティバルを終えて

きらきらでは、8月17日～21日の各曜日でフェスティバルを行いました。

例年では、きょうだい児さんを招いてお祭りの雰囲気を楽しんだり、日ごろの感謝を伝える機会とさせていただいているのですが、今年度はコロナ禍ということもあり、在園児さんと保護者の方のみの参加で行うことになりました。普段の療育とは少し違った、お祭りにちなんだ遊び（輪投げやボーリング等）も行い、初めて見るものに興味をもつお子様の姿が印象に残っています。

また、フェスティバルの中でも一番お子様の笑顔がみられたのは、かき氷の時間でした。目の前で削るかき氷機に興味深々な表情や、かき氷を美味しく食べるお子様たちの姿に、私たち指導員も嬉しい気持ちになりました。こんなご時世ですが、フェスティバルを開催することができ、参加していただいた方には感謝しております。ありがとうございました。(田中)



あおぞら・きらきらオンライン同窓会の報告

8月22日に同窓会を行いました。今年度はコロナ禍ということもあり、初めてZoomを利用しオンラインで実施をしました。当日は4名の方に参加していただきました。画面上に職員や友達の顔が見えると笑顔を見せるお子様や恥ずかしがっている姿が見られました。一年ぶりに顔を合わせて話をするお子様もあり、おしゃべりが上手になっていたり、顔つきがお兄さん、お姉さんになっていたり、一人ひとりの成長が感じられるとても貴重な時間となりました。

今回はオンラインで実施したため近況をお伺いしたり、お子様の様子をお伺いすることが不十分なこともあったと思いますが、一人ひとりの顔を見ながらお話を聞くことの大切さを感じました。今後どのような情勢になっていくかは分かりませんが、その時々で何ができるのかを考えて利用していただいている方に安心していただけるようにしていきたいと思っています。(大向)



お子様の育ちを多角的に考える～きらきら、幼稚園との連携～

先日、きらきら2部を利用されているお子様が通っている幼稚園へ見学に行かせて頂きました。お子様の幼稚園での過ごし方や保護者の方から以前聞いていた幼稚園生活で困っていること等の様子を見させて頂きました。

見学をさせて頂いた後にお子様の幼稚園や家庭、きらきらの様子を踏まえて、担任の先生と今後についてのお話をしました。その際には、お子様がどのような環境であると今まで以上に楽しく過ごせるのかを担任の先生のお話を伺いながら話し合いをさせて頂きました。後日、保護者の方からの電話で幼稚園での生活に変化があったと伺いました。

きらきら2部を利用されているお子様は週1回の利用になるので、生活は幼稚園や保育園、家庭が基盤となります。生活の中の様々な姿を、実際に見聞きする中で、その場でどのような支援が行えるか考えて伝えることや療育に活かしていくことでお子様に変化があったことをお聞きしてとても嬉しかったです。

今後もお子様の生活の様々な場面を知った上でその時のお子様にあった支援を行っていききたいと思います。(山出)



らっこ組「ゴシゴシ」「ふきふき」手洗い支援について

らっこ組での手洗いの取り組みについてです。手洗いは、水分補給の前、給食前、トイレ後と時間を決めて行なっています。まずは、指導員が手を添えて手を洗う手順を伝えました。初めは、手を添えられることの苦手さや、手洗いへの抵抗がみられていました。手を添えられることが苦手なお子様には、指差しや見本を見せて手順を伝えました。手洗いへの抵抗があるお子様には、まずは指先から水につけて徐々に慣れていきました。また、「楽しく」取り組めるように、「ゴシゴシ」「ふきふき」等の声掛けをリズムに乗せて行なっています。毎日、繰り返して行なう事で、徐々に指導員と一緒にいける事がスムーズになってきました。手洗いの際には、イラストカードを提示しています。そのカードを見て「手を洗う」という事が少しずつ結びついてきているように思います。

先日、保護者の方から、「手洗いが上手になってきました」と嬉しいお話を聞かせて頂く事もありました。これからもお子様一人一人に合わせて、継続して、支援を行っていききたいと思います。(逸見)



お子様に合った支援方法を考える～職員としての学び～

クラスのお子様で、指導員の指示を上手く理解できず、集団から外れてしまうお子様がおられました。そのお子様は指導員の誘い掛けや促しに対して怒ったり激しく泣いたりすることが多くなっていました。指導員が優しく声をかけても、楽しい雰囲気でも声をかけても難しく、声をかけ続けられ、よくわからず余計に泣いて怒ってしまいます。こちらの指示が正しく伝われば泣いて怒ることなく、楽しく過ごせるのに…と試行錯誤の日々でした。私は「言葉で難しいのであれば、次は視覚からのアプローチをしてみよう」と思い、クラスの指導員の助言のもと、写真カードを作り、お子様に見せることにしました。カードの内容は些細な日常動作を切り取り、注目しやすいように丸枠を付けたものです。そのカードをお子様に見せたところ、じっとカードを見つめ「うん」とうなずき応じてくれました。

現在ではカードを使って指示を伝えることで怒ったり泣いたりすることは少なくなっています。伝わればこちらも嬉しいですし、もちろんお子様も気持ちよく過ごすことができます。子どもたちが一人ひとり違うことは当たり前で、支援方法も一人一人に合ったもの考えるべきであると改めて感じました。お子様と過ごす日々は私にとって「学び」です。その子に合った支援を模索し、より良く過ごせるようにしていきたいと思っています。(今西)

